

# 第26回

## 神戸須磨ライオンズクラブ旗 マック鈴木杯争奪少年少女野球大会

日時：令和3年11月3日(水) 8時50分

場所：G7スタジアム神戸

決勝戦：令和2年12月19日(日)

場所：G7スタジアム神戸

\*お願い内容について

- ① 各チーム11月の学校行事等について、事務局にメール下さい。
- ② 今大会の最終日が、上記に記載してあります12月19日(日)で期間中日程変更についてご希望に添えない事がありますので、ご了承下さい。

主催 神戸須磨ライオンズクラブ  
運営 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟  
後援 神戸新聞社・デイリースポーツ  
協賛 須磨区役所  
オリックス野球クラブ株式会社  
ナガセケンコー株式会社  
株式会社アシックス  
明石吹奏楽団

## 第26回神戸須磨ライオンズクラブ旗マック鈴木杯争奪少年少女野球大会規則

- ① この大会の競技規則は当該年度「公認野球規則」及び「全日本軟式野球連盟競技者必携・学童野球の関する事項及び下記細則により試合を行う。大会特別規定を設け、その規定を優先とする。
- ② 試合は7回とし、80分を超えれば新しいイニングには入らない。(時間制を採用する)  
決められた回数、時間が経過して勝敗の決しない場合は、抽選とする。
- ③ 決勝戦のみ特別ルールを1イニングのみ適用する(無死満塁で打順は、監督の選択とする。それでも、勝敗が決しない場合は、抽選とする。)
- ④ 6年生、5年生とも決勝戦は7回とし、80分を超えれば新しいイニングには入らない。時間を超えて同点の場合は、特別ルールを1イニングのみ適用し、それでも勝敗が決しない場合は、抽選とする。
- ⑤ ベンチにはチーム責任者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラーとし最大5名までとする。監督・コーチは、ユニフォーム(30・29・28番)を着用し、それ以外はユニフォーム着用は認めない。  
\* 本部の指示で救護係(母親)を1名入れることが出来る。救護係はユニフォームの着用義務はない。
- ⑥ ベンチは組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。試合会場を提供したチームは、1塁側もしくは3塁側を選択できることとする。
- ⑦ 大会試合球は連盟公認J球でナガセケンコー球を使用する。
- ⑧ バット・ヘルメットは連盟公認(JSBB)のみ使用できる。木製バットも認める。
- ⑨ 捕手は必ず連盟公認のマスク、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファールカップを着用すること。
- ⑩ 打者、走者、ベースコーチ、次打者は、必ずヘルメットを着用すること。
- ⑪ 監督、コーチは時間短縮のためタイムを求め、球審が認めたときは、選手に指示を与える。選手交代も同様に時間短縮につとめなければならない。  
なお、抗議できるのは監督のみとする。但しルールの確認行為のみとする。どんな理由があろうと相手チームのプレイヤー及び審判員に対し、悪口、暴言を吐く事を禁ずる。  
\* 攻撃の時間が長引いた時は、本部又は審判員の判断により休息タイムを設ける(休息タイムを本部が認めた時にタイマーを停止し、球審のプレイが宣告された時に再開される)
- ⑫ 試合におけるトラブルなどは球審または審判員の決定に従うこと。
- ⑬ その他、運営面におけるトラブル等は本部役員または担当役員の決定に従うこと。
- ⑭ グラウンドで発生した負傷は、主催者では一切のその責任は持たない。各チームで責任をもって対応すること。
- ⑮ 雨天の際の可否判断はそれぞれの担当役員から連絡するものとする。
- ⑯ 降雨、落雷等により試合を中止した場合、4回終了時で成立する。  
【注】大会日程等の理由により、再試合とせず大会本部の判断により継続試合とする場合がある。
- ⑰ 得点差によるコールドゲームを採用する。3回以上10点差、5回以上7点差とする。
- ⑱ シートノックは4分間とする。但しG7スタジアム神戸及び1・2回戦のノックはなしとする。
- ⑲ チームは試合開始時間の45分前に本部席にメンバー表4通(G7スタジアム神戸は5通)を提出し、先攻後攻のトスを行なう。
- ⑳ ボークは、最初から適用する(5年生は1回注意)
- ㉑ 準決勝戦、決勝戦では投手の球数制限を80球とする。試合中に80球に達した場合はその打者の打撃が完了するまで認める。牽制球・投球練習球・反則投球数には含まない。過失により制限された投球を超えた場合、その打者の打撃完了まで認める。尚ペナルティーは無い【注】参照  
【注】投球数のカウントは、本部が行う。残り10球に到達すると、本部は守備側チームに伝える。チームがカウントした投球数と本部がカウントした投球数とに差異があったとしても、本部の投球数カウントが有効である。差異に対しての異議は唱える事は一切出来ない。但し、試合中に本部での管理の不具合等により、投球数のカウントに支障が起きた場合は、チームがカウントしていた投球数を参考にして本部が投球数を確定する。

## 《変化球に関する事項》

学童部の投手は、変化球を投げることを禁止する。

変化球を投げた場合は次のペナルティを課すこととする。

変化球を投げた場合とは、投球が審判員によって、変化球と判断された場合を言う。

### 〈ペナルティ〉

- (1) 変化球に対して”ボール”を宣告する。
- (2) 投手が変化球を投げた場合は、投げないように監督及び投手に厳重注意する。  
注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は、他の守備位置につく事はできるが大会期間中、投手としては出場することは出来ない。
- (3) 変化球が投げられたときにプレイが続けられた場合は、打者が一塁でアウトになるか、走者が次塁に達するまでにアウトになった場合は、プレイを無効とし、打者のカウントに”ボール”を加える。  
この場合、状況によっては攻撃側の監督の申し出があればプレイをそのまま有効とする。ただし打者が安打、失策、死球、その他で一塁に生き走者が進塁するか、占有塁にとどまっている場合は、変化球とは関係なくプレイは、そのまま続けられる。